

令和4年度 性の多様性について知り、考えるイベント企画・運営業務 開催報告

～当事者主演のトランスジェンダー映画から考える～

開催日時: 2022年11月26日 14:00-15:30

開催場所: ホテルグリーンパーク津(宴会場:安濃)
ZOOM Webinarにてオンライン配信も実施

参加人数: 62人(会場参加) 75人(オンライン配信)

企画内容:
・開会のご挨拶
・映画『片袖の魚』上映
・ゲストトーク
・質疑応答

登壇者: 東海林毅 映像作家 『片袖の魚』監督
イシヅカユウ モデル/俳優 新谷ひかり役(主演)
後藤純一 ライター/エディター トークコーディネーター

当事者主演のトランスジェンダー映画『片袖の魚』とは

等身大のトランス女性の「Life」や「Love」を鮮やかに、魅力的に描いた中編映画『片袖の魚』は、日本で初めて、公募で選ばれたトランス女性がトランス女性の役を演じた作品です。

国内外の映画祭で高い評価を得ている東海林毅(しょうじつよし)監督が企画し、トランス女性当事者という条件でオーディションを実施し、モデルとして活躍するイシヅカユウさんが主役に選ばれました。もう一人、広畑りか(現:椎名理火)さんも当事者の役として出演しています。

ヒューストン国際LGBTQ映画祭最優秀中編賞、「KASHISH Mumbai Queer Film Festival」国際コンペ部門最優秀主演俳優賞を受賞しています。



イベントの目的

映画の上映を通じて、トランスジェンダーのリアリティに触れていただくとともに、なぜこの作品の主人公をトランス女性当事者が演じる必要があったのか、LGBTQを描く作品に当事者が関わる意味、地方でのLGBTQの生きづらさなどについてゲストの方々にお話いただき、性の多様性についての理解や共感を深めていただくことを目的としています。

ゲストトーク概要

監督に聞いた、当事者主演のトランスジェンダー映画を制作した理由

『片袖の魚』は、日本で初めてトランスジェンダー女性の方を一般公募して、当事者の役を演じる映画を作るという企画で始めました。世界ではトランスジェンダーの役は当事者の俳優が演じる流れになっています。私もその流れを取り入れながら、トランスジェンダー俳優の雇用を保障することや、トランスジェンダーをメディアで正しく描くことを念頭に置きました。

また、今まで性の多様性についての映画では、トランスジェンダーの方々が社会の外側に存在しているような(あたかも異常者や犯罪者のような)描かれ方をされている事が多かったです。でも実際、自分の身の回りを見渡してみると、そんなわけがなくて、彼ら/彼女らは普通に生活をしているので、その本当の姿を描かなくてはいけないという気持ちでこの作品を作りました。(東海林監督)

地方でのLGBTQの生きづらさについて

- ・私が高校まで過ごした地域は、当時LGBTQに関しての肯定的な情報が全くありませんでした。女性らしい行動や振り舞いから、いじめの対象となっていましたし、地元では将来に希望を感じられず、東京に出てきました。(後藤さん)
- ・LGBTQの世界は知っていて、中学生の時には自身のセクシュアリティを認識していました。当時、テレビ番組を観ていて、自分もいじめられるのではないかと怖くて学校に行けませんでした。(東海林監督)
- ・ものごころついた時から自分のセクシュアリティを理解していましたし、当時は性同一性障害という言葉もありました。中学校では、男女の制服が分けられていたことが辛くて、不登校になってしまいました。高校の時は先生がサポートしてくれて、女性として通う事が出来ました。地元を逃げ出したかったわけではなく、ファッション関係の仕事をしたくて東京に出て来ました。(イシヅカさん)

主な質疑応答

○映画の中に車いすユーザーの方が出演していましたが、何かの意図があるのでしょうか？

- ・LGBTQ当事者と同じように、車いすの方も、映画やドラマ等に出演すると何かしらの意味を持たされたり、悲劇を背負わされる可哀想そうな存在として描かれがちです。しかし実際はそんな事はなく、彼らは普通に社会生活をおくっていて、そこに意味はないはず。よって、車いすユーザーの俳優を主人公の同僚として描く事にしました。(東海林監督)

○映画の中の居酒屋の場面で、主人公に対して失礼な言動をしてる友人達が描かれているのを観て考えさせられました。LGBTQ当事者の方に対して、彼らに失礼のない(傷つけない)ようにするには、どのように接したらよいのでしょうか？

- ・相手に興味を持って「知ろう」と思う気持ちが大事で、普通に人間として失礼のないように接するだけで十分です。(イシヅカさん)
- ・LGBTQ当事者に対して失礼な質問をしてくる方がいるのは、ある意味メディアの描き方に問題があると思います。バラエティ番組等の影響で、言っている本人は面白おかしく場を盛り上げていると思いますが、実は当事者を傷つけている場合が多いです。(東海林監督)
- ・(東海林監督の発言を受けて、)ただ、そのような発言を耳にした当事者も、その場の空気を壊したくないと思って迎合してしまい、後で後悔する事もあると思います。(イシヅカさん)
- ・当事者がパートナーや自身の話をしてきた場合は、普通にお話を聞いて、普通に接していく事が大事だと思います。(後藤さん)

視聴者からの感想(抜粋)

- ・多方面より考えさせられる内容で、とても面白かったです。
- ・映画がナチュラルで、素敵でした。自分は学校経営に携わっているので、このような価値観を広く自然に取り入れていけたらと思っており、このようなイベントに参加させていただいて本当に感謝しております。監督、主演の方も間近に見ることができて感動しました。ありがとうございました。
- ・セクシャルマイノリティが社会の外でなく中にいるという話が印象的でした。当事者なのにまだまだ分かっていないので、こうした場はとても貴重だと思いました。